

ほっかいどうの社会保障

2022年2月7日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

新型コロナウイルス感染者 医療介護系国家試験にも追試を 北海道民医連が国会議員に 勤医協看護専門学校も要請

新型コロナウイルス感染症が拡大しています。こうした中、今年も1月～3月にかけて、医療介護系の国家試験が行われます。国は、新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者には、感染対策をとった場合に受験を認めています。当日感染している場合は受験を認めていません。

医療介護現場では医療介護従事者が不足しています。追試験を求める声が広がっています。大学共通テストの場合は、新型コロナウイルス感染症者の追試験を行いました。また、2014年の看護師国家試験では大雪の影響で受験できなかった人のための追加試験を実施しています。北海道民医連は、道内選出の国会議員に、勤医協看護専門学校は、北海道にも国に追試を求めるように働きかけました。



看護学生の切実な声 不安・怒りと政府の無作為を訴える

「国試が受けられず、就職できなくなった場合、奨学金の返済が不安です」

家計の状況もありながら、3年間奨学金等を利用し、なんとか学習を続けてきました。

看護師になって働くためには国家試験の取得が必要で、それがなければ来年以降に奨学金の返済がはじまります。それなら今年、国家試験受ければいいだろう、と言われるのもわかっていますが、今の状況下ではいつ、どこで、誰が感染してもおかしくないと思います。

国家試験受験者への留意事項では、抗原検査で陽性となった場合は受験を認めないとされていますが、無症状の陽性者だった場合の感染拡大のリスクについてはどう判断をするのですか、3年間の頑張りがかコロナという災害によってかなわないものとなった場合どうすれば良いのでしょうか。

コロナ対策等含め大変な現状であるのは理解していますが、どうか追試の実施などの措置についてもう一度検討してはいただけないでしょうか。どうかお願いします。

「国試のためにがまんを重ねて苦しい勉強を続けてきました。受けられなくなったらあまりにも酷いです」

感染対策をしっかりといても防ぎようがないくらい、感染は広がっています。国家試験のたった1日のために、今まで外出自粛を強いられ、仲間と交流もできず1人で勉強に取り組んで頑張ってきた人達が、運悪く感染してしまったから受験できないというのはあまりにも酷いと思います。

ニュースで、「昨年度の国家試験で追試験をしなかったから今年もやらない」「短期間で国家試験の問題を作るのは難しい」と議論している記事を見ました。追試験を実施できず辛い思いをした人をこれ以上生まないために、昨年のもも活かして国は前もって追試験等の準備すべきだったのではないかと思います。それを怠って準備できていないから追試はできない、というのは無責任すぎると思います。

医療従事者が足りないと言いつつ、増やそうと努力していないその姿勢が許せません。感染対策をしつつ我慢を強いられながら頑張ってきた人達の努力が報われるような、実力を十分発揮できるような体制が整うよう、祈っています。

職種	主な 医療福祉関係 試験日 (2022年)	国家試験 昨年度受験者数	参考資料 昨年度合格者数
医師	2月5、6日	9,910人	9,058人
歯科医師	1月29、30日	3,284人	2,123人
看護師	2月13日	66,124人	59,769人
保健師	2月11日	7,834人	7,387人
薬剤師	2月19、20日	14,031人	9,634人
理学療法士	2月20、21日	11,946人	9,434人
作業療法士	2月20、21日	5,549人	4,510人
介護福祉士	1月30日・3月6日	84,483人	59,975人

